

号外

令和7年度
第4号

Tobu通信

東部教育局
東教発 R7.7.29

特別支援教育 の充実

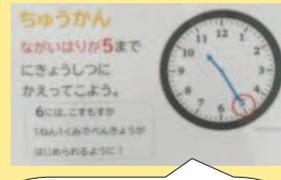
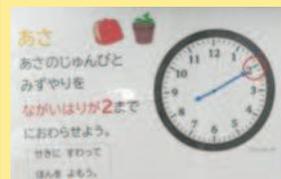
特別支援学級における指導支援の工夫 ～特別支援教育専門員による巡回訪問から～

今年度これまでに、特別支援教育専門員による第1回巡回相談を、70校で実施しました。お忙しい中対応していただきありがとうございました。

この巡回訪問は、特別支援専門員が、特別支援学級に在籍する児童生徒の指導・支援の充実や特別支援学級担任が抱える様々な悩みや困り感の軽減・解消を目的として、年2回、特別支援学級の設置校を訪問するというものです。また、学校からの依頼に応じて、継続的な訪問支援も行っております。

本号外では、訪問の中で見せていただいた小学校での素晴らしい取組の一部を紹介します。各学級の経営方針や児童生徒の実態等に応じて参考にしてください。(中学校は、後期に紹介する予定です。)

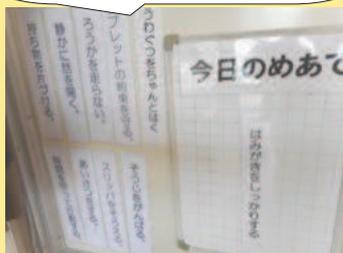
教室環境の工夫 (物的環境の工夫)



やるべきことが、一目でわかる支援。



自分の苦手なことを、改善克服するための支援。



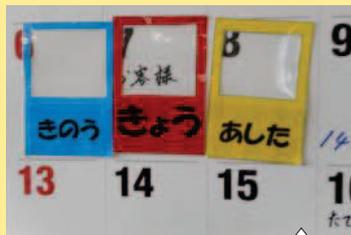
「行事予定」と「昨日・今日・明日」を結び付けて捉える工夫。

場で活動を示す(構造化)することで、主体的な行動の手助けをする工夫。

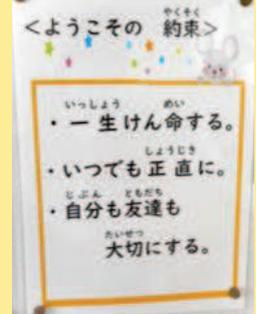
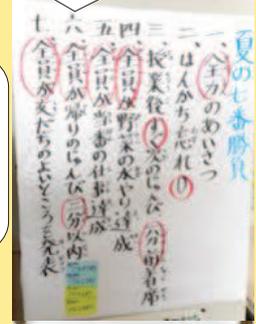
自分で活動の振り返りが毎日できるようにするための支援。



滑り止めマットを使用。正しく座るための支援。



子どもとめあてを共有し、日々の生活で実践・評価するための工夫。



接し方の工夫 (人的環境の工夫)

子どもと教師が通じ合う学級づくり



明るく、笑顔で接しています。

できたことを認める声掛けを意識しています。

人と同じことをさせるのではなく、集団の中でも、子どもが「わかる」「できる」ための個々の支援を考えています。

まずは、子どもの話(言い分)を聞いて受け止めています。問題となる行動についての指導は、短時間で端的にするように心がけています。

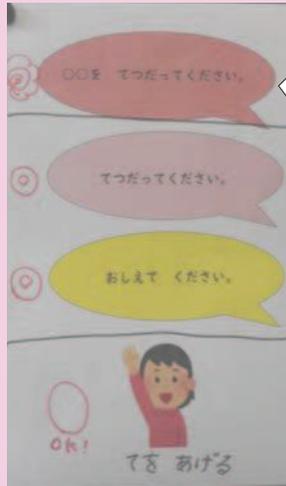
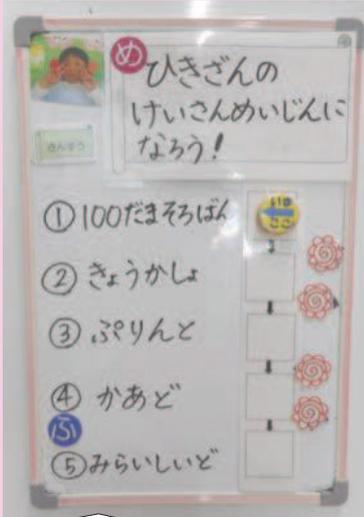
ダメだということ伝えるときは「どうしてそうなったか考えてごらん。」と子どもに考えさせています。

子どもの言いたいことを、言語化して代弁するなど、日々の具体的な場面で、ミニSSTをしています。



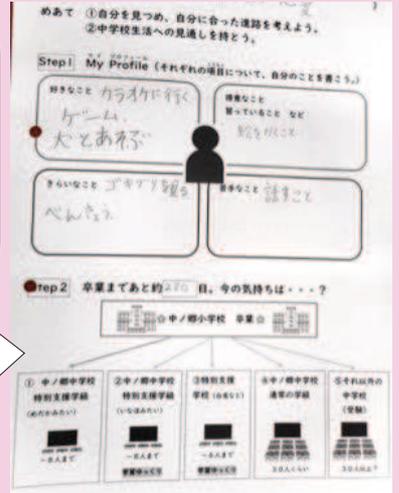
現状を子どもの責任にせず、自分の「授業」や「学級経営」について目を向けられる先生は、子どもとの信頼関係が強いということが言えます。

授業づくりの工夫

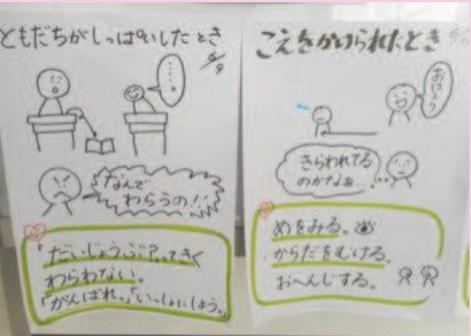


本人の今の姿（できていること）を認めると同時に、なりたい姿（なってほしい姿）をスモールステップで視覚的に示す支援。

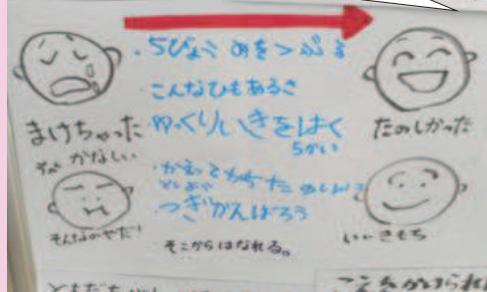
進路指導の中で、中学校生活の見通しを持たせるための工夫。



自立活動の学習履歴を掲示することで、学んだことを、日常生活で応用できるようにするための工夫。



毎時間の「学習のめあて」と「授業の流れ」を示し、見通しをもって意欲的に取り組むための支援。できたことについては、花丸ですぐに評価を実施。「わたり」と「ずらし」を上手く仕組むためにも有効な支援。



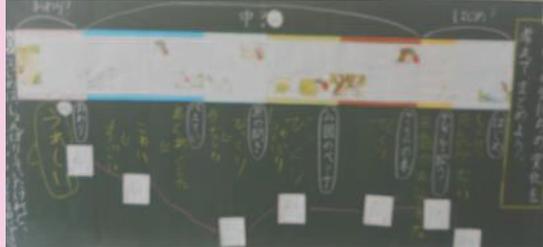
国語の物語文で、登場人物の気持ちの変化を言葉と表情で視覚的に示す工夫。



子どもがまとめたものを、学習履歴として掲示。わからなくなったらすぐ見直し、思い出せるようにするための支援。



国語での助詞の指導において、黒板でカードを操作する活動を取り入れながら、視覚的にわかりやすく学ぶ工夫。



使わないカードをあえて入れて「あれ？」と考えさせることで学習を深める工夫。

<取組について情報を提供して下さった学校>

- ・鳥取市立湖山西小学校 ・鳥取市立末恒小学校 ・鳥取市立西郷小学校 ・鳥取市立青谷小学校
- ・鳥取市立日進小学校 ・鳥取市立宮ノ下小学校 ・鳥取市立中ノ郷小学校 ・鳥取市立米里小学校

各学校において、4月からこれまで、担任の先生をはじめ特別支援に関わる先生方が、特別支援学級の物的環境や人的環境を整え、個々の教育的ニーズに合った支援を積み重ねてきた努力が、子どもたちの自らの課題に挑む主体的な姿に表れていました。うまくいかないこともあります。一人で抱え込まないように校内のサポート体制を組み、これからも「チーム支援学級」として、学び合いや助け合いを大切にしていきたいと思います。困ったことがあれば、気軽に専門員へご連絡ください。一緒に考えていきたいと思います。後期の巡回相談もよろしくお願いいたします。